

大正十年六月四日

藤永田造船所主

今社へ回答ノ各項ニ付詳細ナル説明ヲ加ヘ会社ノ意思ヲ存スル  
所ヲ懇切説明スル苦ナリシモ既ニ職工等ノ工場外ニ集團シテ  
喋ニ直リ不秩序ノ状態ニ在ルヲ以テ会社ノ之ヲ徹底的に説  
明ハ到底不可能トシニ工場内各所ニ回答トモ未ダ掲示シ一般  
職工ニ周知ノ方法ヲ執リタリ其末ヲ免シタルト委員数名  
ハ両工場ニ滞未公見懸未ダ報告シ一時元奮闘士連中ニ亦一実行  
委員ト見テ本社ニ派遣シタルモ亦一実行委員同僚 梅東ノ  
便レアリトシ中途ヨリ引返シタリ

四日午後六時 造船労働組合横井清行主催ノ下ニ九条ヲ  
民衆、労働問題演説會開催、会場狭隘ノ爲メ約七百名  
ヲ容シタルニ約千ノ群衆ハ場外街道ニ溢リ群衆ノ全部ハ強シ  
ト該組合員ニシテ実行委員山本寅七ノ交情頼未報告シ  
次ギ東忠、藤外四名演説アリ閉会後僅ハ二時ヨリニ閉会  
ヲ告ケ労働歌ヲ唱ヒシテ散会セリ  
(六月四日)

四日市民殿ニ於ケル職工側幹部打合ノ内容ハ團體交渉権ノ  
問題ヲ巧ニ指針タル会社ノ回答ニ満足セズアツルニ手段ニ訴  
ヘ初期ノ目的ヲ達スル爲メ熱烈ナル演説會及示威運動ヲ  
敢行スルコト並ニ撲滅セラシタル幹部員ノ解放ヲ迫ルヲ先  
決問題トシ概要別記(一)ノ如キ決議ヲ爲セリ  
五日公休日ナルヲ以テ実行委員山本寅七其他約五十名ハ朝  
来旭便本部ニ集合シ協議シテ本工場ニ於ケルヲ二男  
行委員ヲ選定セリ之ヨリ先職工側ハ会社ノ回答(及答其他